

## SKYMENU 活用授業 実践レポート

|      |           |     |          |
|------|-----------|-----|----------|
| お名前  | 秦 菜緒      | 学校名 | 堺市立神石小学校 |
| 実施学年 | 6年生       | 教科  | 国語科      |
| 单元名  | 光村図書「帰り道」 |     |          |

### 《学びを深めたいポイント》

本実践では、登場人物たちの思いや考え、その変容といった作品の内容から、構成や描写などの作品の書かれ方までさまざまな角度から味わうことのできる光村図書の国語教材「帰り道」の実践を提案する。

「帰り道」は、同じ出来事について、「1」では「律」の視点から、「2」では「周也」の視点から語られていることが、作品の大きな特徴となっている。また、等身大の登場人物たちの心情が、巧みな情景描写やキーワードなどから実感をもって子どもたちに伝わるようになっている。まず初めに、「1」と「2」の文章を比べて、それぞれの人物像を捉え、自分がどちらのタイプに近いかを考える活動を行った。自分と重なる部分を考えることでより教材に迫ることをねらいとした。次に、物語の中で作者の森絵都さんが一番工夫している部分を考え「視点や作品の構成に着目する」活動を行った。その際に、2人にとって「天気雨」が心情の変化につながっていることから、天気雨によってそれぞれの変化についてベン図を用いてまとめていった。最後に、教科書にある作者へのインタビュー動画から、どのような思いで作品を書いたのかを知り、子どもたち自身が紹介する文章を考えた。

### 《SKYMENU 活用のポイント》

本時では、発表ノートに思考ツール「ベン図」を貼り付け、それぞれの考えを可視化した。律と周也の変容について叙述をもとに根拠をもって考え、理由付けを行った。その際に、個人で考える児童もいれば、ペアやグループといった他の児童とグループワークを行い、まとめている子もいた。そして、それぞれが考えたものを「みんなの作品」にもちより、ふせんに意見を書いて交流を行った。「帰り道」を紹介する文章を書く活動では、発表ノートを使い、文章構成をイメージさせるため、色分けをした付箋を用いた。それぞれの付箋にどんなことを書くかは子どもたちと共有した後、活動に取り組ませた。学習の中で学んできた、自分と似ているところやちがうところ、作者の森絵都さんの工夫、物語の魅力、紹介するとしてどんなときに読んでもらいたいかを考えた文章を作成することができた。提出してもらった文章は、印刷し、他の児童も見れるように教室内に学びのあととして掲示を行った。

### 《実践内容》(3/5時)

|    | 学習活動                                   | SKYMENU 活用場面 | 活用のポイント |
|----|----------------------------------------|--------------|---------|
| 導入 | 1. 本時の課題をつかむ。<br>(1) 作品の一番の工夫ポイントを考える。 |              |         |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                          |                                                     |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
|     | (2) 本時の課題をつかむ。<br>「視点や作品の構成に着目して読み、印象に残ったことを伝え合おう」                                                                                                                                                                                                             | <div data-bbox="662 116 1461 698"> </div>                                                                                                                |                                                     |
| 展開  | <p>2.話の中で特に変化のあった場面について話し合う。</p> <p>・天気雨が降ったとき。</p> <p>3.天気雨によって登場人物に起こった変化について考える。</p> <p>・笑いが起こった。</p> <p>4.登場人物それぞれの変容について教科書の叙述をもとに考える。</p> <p>・律:何かを洗い流した。<br/>みぞおちの異物が消えた。<br/>言いたいことが言えた。</p> <p>・周也:律の意見に賛成した。<br/>だまっとうなずいた。<br/>初めて律の言葉を受け止められた。</p> | <p>・発表ノートに思考ツール「ベン図」を貼り付けて配布する。</p> <p>・スタンプの矢印で言葉を結び付けたり、付箋の色を同じにしたりして分かりやすくしていく。</p> <p>・ペアやグループで行う場合はグループワークを用いた。</p> <p>・「みんなの作品」で付箋を用いて意見を交流した。</p> | <p>・考えを可視化する</p> <p>・友達の意見を聞いて自分の考えに生かすようにしていく。</p> |
| まとめ | <p>5.本時の学習を振り返り、天気雨による効果について自分なりに振り返り、まとめた。</p> <p>・天気雨は、二人のもやもやを洗い流してくれた。</p> <p>・雨でなく天気雨なのは、予想しないことが起こったということを示しているんだと思う。</p>                                                                                                                                |                                                                                                                                                          |                                                     |

## 《実践を振り返って》

この機能は、子どもたちが自分の考えをアウトプットし、まとめるのに活用できる。「ベン図」以外にも、資料置き場にさまざまな思考ツールを入れておき、子どもたちが自分の考えを整理しやすいものを使えばより意見をまとめやすくなり、個別最適な学びへとつながることができる。そして、グループワーク機能は、1人で考えるのが苦手な児童も一緒に作業することで他の人の考えを聞きながら自分の言葉にまとめることができ、協働的な学びへとつながっていく。「みんなの作品」では、自分たちが考えたものを付箋で交流することで1時間の学びをまとめることにつながることができた。

本時以外にも、発表ノートや「みんなの作品」で共有することは子どもたちが意見交流をする上でとても重要な活動となった。